

CD110 promotes pancreatic cancer progression and its expression is correlated with poor prognosis

巖, 子龍

<https://hdl.handle.net/2324/2348703>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

(別紙様式2)

氏名	巖子龍			
論文名	CD110 promotes pancreatic cancer progression and its expression is correlated with poor prognosis			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	小川 佳宏
	副査	九州大学	教授	新井 文用
	副査	九州大学	教授	田口 智章

論文審査の結果の要旨

Thrombopoietin (TPO) の受容体である CD110 は、骨髄性白血病の癌遺伝子あるいは大腸癌肝転移の特異的マーカーとして報告されている。本研究では、膵癌における CD110 発現と臨床的意義、機能的役割を検討した。免疫組織化学染色法により、CD110 は正常膵組織の膵管上皮細胞では検出されないが、膵癌原発巣組織の癌細胞の細胞質と細胞膜に発現しており、膵癌肝転移巣においても検出された。CD110 発現のノックダウンにより膵癌細胞株の遊走・浸潤能が有意に低下し、TPO による細胞増殖促進作用も抑制された。又、膵癌細胞の血管内皮浸潤モデルにおいて TPO の促進作用が認められた。CD110 発現のノックダウンにより膵癌細胞の脾臓内移植マウスにおいて肝転移が阻害された。膵癌切除症例 (n=86) において、CD110 発現陽性群は陰性群よりも全生存期間 (P=0.0003) と無病生存期間 (P=0.0001) はともに有意に短かった。臨床的にも CD110 発現陽性群ではより早期に肝転移巣が形成されると考えられ (P < 0.001)、CD110 は膵癌の肝転移の予測因子となることが示唆された。

以上の研究成果は、当該研究領域に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文に関する試験では、論文の研究目的・方法・実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容と関連事項に関する質問を行い、概ね適切な回答を得た。

以上を踏まえて、調査委員の合議の結果、試験は合格と決定した。

尚、本論文は共著者16名であるが、予備調査の結果、本人が主導的役割を果たしていることを確認した。